

台北で、台湾の文化について学びました

音楽教育ゼミ(高橋ゼミ)は、2025年2月24日から26日にかけて、特別支援教育工学ゼミ(大杉ゼミ)、家庭科教育ゼミ(駒田ゼミ)と合同で、中華民国(台湾)の台北にフィールドワークに行き、台湾の文化について学んできました。

現地ガイドの李春蘭さんは台湾の住民から見た中華民国の歴史を説明して下さり、日本で中華民国や台湾について教科書で学ぶこととはまた違った視点を得ることができました。また、李さんは台湾の原住民族16部族の一つのブヌン族の出身で、漢民族とは違った文化を持っていることを教えていただきました。

音楽教育ゼミの一番の目的は、故宮博物院の訪問でした。故宮博物院は、中国の歴代の王朝が集めてきた宝物をおよそ70万点収蔵している巨大な博物館です。世界四大博物館の一つにも数えられています。

音楽教育ゼミでは、訪問前に、かつて北京の紫禁城(故宮)に収められていた宝物がどのような経緯で台北に移されたのかを勉強しました。李さんから故宮博物院の歴史を教えていただきました。館内では、李さんより、漢民族の玉に対する信仰のことや、青銅器に刻まれた文字のことなどを教えていただき、展示されている文物の価値をより深く理解することができました。最も古い収蔵品は約5000年前のものだそうです。収蔵品は、芸術的価値はさることながら、かつての中華文化を伝える史料としての価値も高いものばかりでした。これらの貴重な収蔵品が戦乱や文化政策を乗り越えて今に受け継がれていることの素晴らしさと、文化の継承に携わった人々の努力を感じました。有名な収蔵品である「翠玉白菜」は見ることができませんでした。碧玉で作られた豚の角煮そっくりな「肉形石」を見ることができました。

その他にも、超高層ビルの台北101や中正紀念堂の訪問、桃園神社や道教寺院の参拝、十份でのランタン飛ばし、九份での茶芸館の体験、饒河街夜市での食べ歩き、服飾問屋街の五分埔商圈でのショッピング、北京ダックや小籠包や台湾スイーツといったグルメなど、台湾の文化を堪能してきました。

